

## 「道有林創設110周年」 次期整備管理計画策定に係る現地検討会 平成28年9月28日(水曜日)に開催しました。

当森林室では、道民の皆様方の共通の財産である道有林野を適正な整備・管理を進めるに当たって、森林づくりに対する地域の方々の理解及び参加を促進することとし、平成20年度から道有林の現地説明会等を実施しています。

平成28年度は、「道有林創設110周年」を向かえる道有林の森林整備に対する理解を深めていただくと共に、平成29年度から始まる次期整備管理計画の策定に際し、地域住民の方の意見を整備管理計画に反映させるため現地検討会を開催しました。

- ★ 開催日時:平成28年9月28日(水曜日) 10:00~15:00
- ★ 開催場所:安平町早来町民センター(室内検討会)  
安平町追分旭 道有林胆振管理区146・147林班(現地検討会)
- ★ 参加人数:20名
- ★ 主催:北海道胆振総合振興局森林室



## 「道有林創設110周年」次期整備管理計画策定に係る現地検討会

<b>日 時</b>	平成28年9月28日（水） 10:00~15:00	<b>場 所</b>	室内：安平町早来町民センター 現地：安平町追分旭（146・147林班）
<b>参加人数</b>	参加者内訳：20名（地域住民等） 出席者内訳：14名		
<b>内容種類</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 1 高齢級人工林の次世代更新 <input type="checkbox"/> 2 天然林の次世代更新 <input checked="" type="checkbox"/> 3 その他（管理区評価の説明・道有林基本計画骨子及び整備管理計画の基本的な考え方の説明）		
<p><b>【内容】</b> 道有林の森林づくりに対する道民の理解と参加の促進に資するため、並びに、次期整備管理計画策定に際し、地域住民の意見を反映させるため、また、「道有林創設110周年」の記念として開催した。</p> <p>（室内検討会）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 胆振管理区評価についての説明及び意見交換</li> <li>2 道有林基本計画骨子の説明及び意見交換</li> <li>3 次期整備管理計画の基本的な考え方の説明及び意見交換</li> </ol> <p>（現地検討会）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 カラマツ若齢人工林の保育間伐について             <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 保育間伐の必要性について説明及び意見交換</li> </ul> </li> <li>2 カラマツ高齢級人工林の主伐について             <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主伐（単層林施業）について説明及び意見交換</li> </ul> </li> <li>3 主伐後の更新（機械地拵）について             <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 機械地拵方法について説明・実演及び意見交換</li> </ul> </li> <li>4 単層林施業による人工林造成             <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今期、伐採・単層林施業（皆伐＋再造林）について説明及び意見交換</li> </ul> </li> </ol>	<p><b>【主な発言内容】（参加者からの質問・意見）</b> <b>（室内検討）</b></p> <p>Q 道有林基本計画の骨子の中で、利用期を迎える人工林が4割に急増とあるがどうということか。また、主伐か間伐なのか</p> <p>A 利用期とは、標準伐期齢のこと。また、主伐・間伐両方のこと。</p> <p>Q 利用期を迎えている人工林は積極的に主伐を行い循環利用し、今まで以上に推進するのか。</p> <p>A できるところは、積極的に推進していく。</p> <p><b>（現地検討）</b></p> <p>Q 保育間伐で幅状4m伐採の12m残して、4mの伐採幅では、機械で作業できるか。また、12m残しとは、次回は真ん中を幅状で入れる考えか。</p> <p>A 平均径級15cmで利用するには、細いためもう一回人力整理することを考え、4mとした。次も幅状とし、伐採列の隣の列を伐採することにより、8mとなり機械作業線として使える。</p> <p>A 民有林では、利益を追求しなければならないため、定性でやっている。。</p> <p>Q 主伐箇所で広葉樹も全て伐採するのか。</p> <p>A 木材等生産林なので、単層林施業するため全て伐採する。広葉樹が量的・面的に纏まっていれば区域から除外する。</p> <p>Q 径級が太いが、製材工場では製材できるか。</p> <p>A 製材工場では、36cmが限界。それ以上となると、港の方へ行く。実際、困っているのが間伐が少なくなって皆伐が多くなっているため、必要な径級の材の確保がむずかしくなっている。</p> <p>Q カラマツの後にカラマツ植栽で問題ないか。</p> <p>A 昔から言われているが、特に問題ない。</p> <p>A 機械地拵の情報提供として、機械地拵の方法は、国有林でもこここのやり方と同じで、出来るだけ有機物を残すようにふるい分けしながら地搔きしている。</p> <p>Q 植栽本数が低コストの足かせとなっているが。</p> <p>A 時間はかかるが、2,000本/haでも大丈夫ということを証明していくかと思われる。</p>		

実施状況写真



(室内検討)



(保育間伐)



(人工林主伐)



(機械地拵)



(人工造林)



(記念撮影)